

はじめに

国立青少年教育振興機構では、令和3年度から実践研究事業に取り組んでいます。実践研究事業とは、大学等の研究機関と協働し、専門性の高いモデル的体験活動を取り入れ、その効果測定を行い、その成果をもとに体験活動の普及に努めていくもので、全国の国立青少年教育施設(27 か所)全てで取り組みました。

また当機構は、国土強靱化基本計画に対応し、全国に28か所ある国立青少年教育施設について、自治体の境界を超えた「広域防災補完拠点」に指定されており、防災教育に関する体験活動プログラムの開発に取り組んでおります。当所では防災プログラムの開発に際して知識・技術の習得よりも精神面の育成が重要であると考え、「レジリエンス」に着目しました。レジリエンスとは、困難な状況に直面しても精神的健康を維持し、うまく適応して回復を導く心理特性と言われており、当所の前を流れる沙流川の支流で行われている沢登りプログラムの体験がこのレジリエンスを高めることができるのではと考えました。そこでこの防災教育プログラムの開発と実践研究事業を一つにまとめて行うこととしました。

沢登りプログラムにいろいろな試行錯誤をしながら令和3年から6年まで事業を試行し、併せてレジリエンスに関する調査データを収集、分析してきました。その成果を本報告書にまとめ、併せて沢登りを効果的に行っていただくためのプログラムガイドを作成しましたのでご覧ください。

本報告書が青少年教育施設をはじめ、青少年教育関係者が事業を企画・実施する上での参考となり、さらには青少年の豊かな体験活動のますますの発展の一助となることを祈念します。

最後になりますが、調査研究全般にわたり指導助言いただいた北海道教育大学岩見沢校の山田亮教授、事業に参加した子供たちをサポートしていただいたボランティアの方々など関係者の方々に厚く御礼申し上げます。